

## 令和2年度 浜松市博物館事業評価

### 戦略指標1 資料収集と保管・活用

- ・地域を特徴づける資料収集と保管
- ・資料データ化と収蔵資料の充実
- ・地域の文化を地域で保管活用

#### 定量的評価

No.	評価項目	実績値	目標値
1	新着資料件数	38件	20件
2	台帳整備件数	1,177件	1,000件
3	新着資料公開件数	6件	10件
4	新規電子公開件数	100件	100件
5	資料事故発生件数	0件	0件

#### 定性的評価

No.	評価項目	判断基準
1	計画的な資料収集が行われている	収集方針がある。
	<p>&lt;評価&gt;</p> <p>「浜松市博物館の資料収集方針」「浜松市博物館資料収蔵基準」「浜松市博物館資料購入基準」に基づいて、寄贈・購入・採集等により資料を収集した。また、これらの方針・基準を踏まえながら内容の整理を行い、新たに「浜松市博物館資料収集方針」「浜松市博物館資料購入基準」を令和3年4月1日に施行するための準備を行った。</p>	
2	資料の保管が確実になされ、良好な状態に保たれている	定期的な清掃や点検、整備が行われている。
	<p>&lt;評価&gt;</p> <p>展示室・収蔵庫については定期的に清掃を実施した。収蔵庫については空調設備が整わない中でも温湿度の常時計測を実施し、必要に応じて除湿器による湿度の適正管理に努めるなど、総合的な環境の維持管理を行うため、文化財IPMの推進を図った。</p> <p>一方で、収蔵庫の飽和状態は年々進んでおり、整理による資料の適正な保管位置の確保や、定期的な点検等は十分に実施することができなかった。</p>	
3	複数、遠隔の収蔵施設が計画的に運用されている	分収計画があり、それによって収蔵を行っている
	<p>&lt;評価&gt;</p> <p>所蔵資料の保管については、博物館本館、分館のほか廃止した資料館や廃校等を利用している。旧合併市町村から引き継いだ資料はその地域での保管を基本としており、引き続きその計画に基づいて資料の収蔵を行った。</p> <p>また、遠隔地の収蔵施設に保管する資料を把握・確認するため、平成20年度以降計画的に資料台帳のデジタル化を進めており、令和2年度は舞阪郷土資料館所蔵資料の一部で実施した。</p>	

## 令和2年度 浜松市博物館事業評価

4	収蔵資料の活用と見直しが図られている	履歴情報が明確化できる。
<p data-bbox="236 248 347 280">&lt;評価&gt;</p> <p data-bbox="209 297 1414 472">収蔵資料については、展示による活用のほか、博物館収蔵品検索システム「ある蔵」や図書館で運用している「浜松市文化遺産デジタルアーカイブ」との連携によるインターネット上での公開、定期的な刊行物である「浜松市博物館報」（年1回）や「浜松市博物館情報」（年6回）での紹介などを行った。</p> <p data-bbox="209 490 1414 562">収蔵品の整理を進めていく中で、未調査の資料や収蔵経緯・使用履歴が不明な資料を活用するための調査・洗い出しを実施したが、いまだ不十分である。</p>		

### 分析・課題

博物館収蔵庫については飽和状態が進んでおり、資料の適正な保管位置の確保や、定期的な点検等を行うことが難しくなっている。

また、本館以外の収蔵施設の中には老朽化や保安面などの問題を抱えている施設もあり、遠隔地において資料の状況を頻繁に把握できないことが課題である。

収蔵品の中には未調査の資料や、収蔵の経緯や履歴が不明で活用できていない資料が存在している。

### 今後の方策

資料の収集に関しては、限られた収蔵スペースの中で有効な収集を行うため、新たに定めた「浜松市博物館資料収集方針」「浜松市博物館資料購入基準」を学芸員が共有し、積極的に地域での調査を行う中で、資料の掘り起こしと情報収集を進め、系統立った収集資料の選定を行っていく。

資料の管理に関しては、引き続き定期的な清掃や温湿度計測等の文化財IPMや、デジタル台帳の整備に努めるとともに、収蔵庫内の再整理や資料点検を強化していく。また、市内に分散する収蔵施設についても定期的な巡回確認を行うことで適正な管理に努め、将来的には地域性に加えて資料の重要度や材質、劣化状況などによる収蔵資料の仕分けを全体的に行い、安定的な保管体制を構築していく。

資料の活用に関しては、情報の不足している所蔵資料の活用に向けた調査を強化するとともに、新型コロナウイルスの影響による新しい生活様式に対応するため、インターネット上における公開を推進していく。

# 令和2年度 浜松市博物館事業評価

## 戦略指標2 調査研究

- ・学芸員の質の向上
- ・地域の研究機関との共同研究
- ・地域資料の掘り起こし

### 定量的評価

No.	評価項目	実績値	目標値
1	収蔵資料の調査研究公開件数	16件	15件
2	市内外の歴史と文化に関する調査研究	18件	15件
3	他博物館の先進事例調査件数	3件	10件
4	館外のプロジェクト参画件数	7件	10件

### 定性的評価

No.	評価項目	判断基準
1	博物館と浜松市が調査研究施設としての自覚を持っている	研究発表の場を持っている
	<p>&lt;評価&gt;</p> <p>令和2年度は、特別展やテーマ展等の展示や、図録や館報等の刊行物、講座の開催等により、調査研究成果の公開を行った。また、伊場遺跡群の弥生時代資料の再検討、蜷塚遺跡保存活用計画の検討、新たな歴史資料の発掘や「家康伝承」の全体像の解明を市民協働で行う「家康伝承調査事業」を開始したほか、「浜松の染色型紙」について静岡文化芸術大学と継続して共同研究を行い、資料のデータ化を進めた。静岡大学や根堅遺跡調査団とは、浜名湖北岸の石灰岩地帯の洞穴遺跡の共同調査を行い、地域の歴史文化に関する研究に取り組んだ。</p>	
2	調査研究の環境が保たれている	研究室が整備されている
	<p>&lt;評価&gt;</p> <p>博物館内には資料研究室・保存処置室・写場・補修工作室など調査研究に関わる部屋が存在するが、開館以降、各種物品の増加や教育普及機能が充実する中で、研究スペースが減少している。また、学芸員の業務も事務作業や外部との調整など多様化かつ増加しているため、学芸員が事務室において業務を行っていることが多い。</p>	
3	博物館が調査研究施設であるという評価を受けている	外部利用等、外部の研究者の利用を受けている
	<p>&lt;評価&gt;</p> <p>外部の研究者グループにより、博物館収蔵資料である蜷塚遺跡の貝塚出土動物遺存体が研究利用された。また、研究者による各種資料の熟覧や画像利用等も行われた。</p> <p>なお、項目1のとおり、静岡文化芸術大学、静岡大学、根堅遺跡調査団等との共同の調査・研究を行っている。</p>	

## 令和2年度 浜松市博物館事業評価

### 分析・課題

令和2年度は、「家康伝承調査事業」「蜷塚遺跡保存活用計画事業」「伊場遺跡群弥生時代資料再検討事業」や、静岡文化芸術大学との「浜松の染色の型紙」共同研究事業など、新たに開始または継続中の調査研究事業が多く、それらの調査成果の公開は数年後になる予定である。

また、学芸員が事務・調整的な業務等も抱え、物理的な調査研究スペースも減少しつつある中で、調査研究活動への比重が低下し、展示への反映、研究発表の場である講座の開催や館報等刊行物での発表については十分とはいえない状況である。

### 今後の方策

継続中の調査研究事業を引き続き推進していくとともに、外部との連携による調査研究について積極的に検討していく。

また、業務の見直しや分担化、調査研究スペースの環境改善を進め、学芸員業務の調査研究に対する比重を向上させることで、展示内容の充実化や、講座の開催・研究論文掲載の増加を図る。

## 令和2年度 浜松市博物館事業評価

### 戦略指標3 展示・教育普及活動

- ・浜松市と関連のある展示会の企画
- ・学校や地域と連携した講座やイベントの開催

#### 定量的評価

No.	評価項目	実績値	目標値
1	博物館年間観覧者数	41,140人	71,000人
	うち、本館	24,032人	43,000人
	分館	18,108人	28,000人
2	博物館年間利用者数	74,823人	142,000人
3	企画展示開催件数	8件	6件
4	巡回展開催件数	10件	10件
5	博物館講座開催件数	5件	20件
6	体験事業開催日数	42日	80日
7	学校移動博物館A（学校訪問）開催件数	8件	10件
8	学校移動博物館Bほか（教材貸出）利用件数	101件	100件
9	各種研修生受入件数	145人	300人
10	ボランティア養成事業開催件数	6件	4件

#### 定性的評価

No.	評価項目	判断基準
1	本館は、市民はもとより国内外の人びとが浜松市を理解し、知的好奇心を満たすことができる場である	多言語対応や解説の精選を進めている
	<p>&lt;評価&gt;</p> <p>常設展は「目でみる浜松の歴史」として、考古・歴史・民俗資料を用いて原始から現代までの浜松市の歴史を紹介し、企画展（特別展・テーマ展）では常設展に展示していない所蔵資料や、他地域の関連資料を展示することで、浜松市に関する特定の歴史・文化について内容を掘り下げて紹介した。</p> <p>常設展解説パネルについては、一部修正を行い改善を図った。一方で多言語対応については、例年どおり解説パネルや資料キャプションのタイトルと時代についての英語表記に留まった。</p>	
2	各分館は、地域の歴史や文化を理解し、知的好奇心を満たすことができる場である	地域の人々との事業連携を計画している
	<p>&lt;評価&gt;</p> <p>舞阪、浜北、細江、春野、水窪の各分館ではそれぞれの地域の特色ある歴史文化を紹介している。また、本館で開催したテーマ展の巡回や地域に関する小展示を分館で実施することで、多様な文化に接する機会を提供した。なお、指定管理者制度を導入している舞阪、浜北では、管理者による自主事業（展示や教育普及事業等）を展開した。</p>	

## 令和2年度 浜松市博物館事業評価

3	学校の学習内容に即した展示や教育事業を行っている	
<p>&lt;評価&gt;</p> <p>来館する学校は、「社会科」、「生活科」、「総合的な学習の時間」というように、それぞれ学習のねらいや内容が異なる。そのため来館校の職員と事前に連絡を密にとり、可能な限りねらいに即した解説を行った。また、小学校3年生の「道具とくらしのうつりかわり」の学習に合わせ、小展示「道具たちの100年」やイベント「昔のくらし体験館」を、小学校6年生の「縄文のむらから古墳のくにへ」の学習に合わせてイベント「縄文のくらし体験ツアー」や「古代アクセサリ作り」を実施した。</p>		
4	授業を支援する教材やプログラムを提供している	
<p>&lt;評価&gt;</p> <p>学校移動博物館として博物館資料を学校に持ち込み、展示や体験学習などの学習支援を行っている。また学習内容に合わせた教材の貸出も年間を通して行っている。「大昔のくらしの道具」「昔のくらしの道具」といったこれまでの貸出資料に加え、「生活科」や「国語科」の学習に生かせる、さまざまな種類のコマを集めた「こまセット」の貸出を新たに始めた。授業に役立てるというねらいで教職員向けの「博物館活用講座」も体験活動を交えながら実施した。</p>		
5	浜松の歴史や文化を題材とした体験事業を行っている	
<p>&lt;評価&gt;</p> <p>学校移動博物館においては、実施校の学区の歴史や文化についての解説を行っている。また「三方原の開拓」「天竜川の治水」といった郷土の歴史の学びのために、実際に背負子や開墾鋤などを用いた体験学習も取り入れている。蜷塚遺跡の特徴を生かした縄文時代に関わるミニ体験も実施し、浜松の歴史に触れられる工夫をしている。</p>		

### 分析・課題

利用者数は、本館・分館ともに新型コロナウイルス感染症拡大による休館や外出自粛により前年より大きく減少した。消毒液・非接触体温計の設置、見学・体験時の3密回避など物理的な対策は実施したが、展示や体験学習等の内容についても新しい生活様式に対応していく必要がある。

常設展の多言語化や解説・展示内容の精選は、少しずつ進めているがまだ十分とはいえない。

来館者アンケートによる企画展開催時の満足度は90%前後と概ね好評であったが、解説が少ないなどの指摘も見受けられたため、指摘内容を真摯に受け止めて内容の改善を図る必要がある。

学校関連事業や体験事業については、指導主事を中心に十分な対応を行うことができたと考えられる。

### 今後の方策

新しい生活様式の中でも有効な展示や学習等のあり方について、デジタル技術などを取り入れながら実施する方法を検討していく。

展示内容の改善については、来館者目線に立った解説パネルの作成を心掛け、解説シートを補助的に使用するなど、満足度の向上に努めていく。また、外国人の入国制限が続く中で、将来的な来館需要を見極め、適切な多言語対応の方策を検討していく。

## 令和2年度 浜松市博物館事業評価

### 戦略指標4 市民協働

- ・ボランティア活動の充実
- ・地域団体等との相互協力
- ・市民主体の文化創造

#### 定量的評価

No.	評価項目	実績値	目標値
1	地域イベントの開催数	1件	3件
2	参加者数	60人	300人
3	逸品陳列開催件数	0件	5件
4	出前講座開催件数	1件	10件
5	他団体共催件数	7件	5件
6	ボランティア延べ人数	492人	1,000人

#### 定性的評価

No.	評価項目	判断基準
1	博物館が浜松市民のシビックプライドを培っている。	市民学芸員制度を進めている
	<p>&lt;評価&gt;</p> <p>令和元年度に施行した「浜松市博物館ボランティア・市民学芸員設置要綱」に基づき、ボランティアを募集し（令和2年度末の登録者67人）、うち知識・経験のあるボランティアを市民学芸員に認定している。ボランティアは主に展示解説や体験学習、資料整理などに参画し、年度末にボランティア同士の報告会を実施している。令和2年度は2名の加入があった。</p>	
2	博物館の事業が、新たな文化創造に寄与する可能性がある	市民が参画できる事業の計画を進めている
	<p>&lt;評価&gt;</p> <p>令和4年度の特別展「三方ヶ原の戦いと家康伝承」に向けて、市民協働による「家康伝承調査事業」を実施しており、今後、調査成果の展示や刊行物での公表を検討している。</p> <p>また、資料調査や体験学習において市民や市民団体等と連携しながら進めているものも存在する。</p>	
3	地域との関係が良好に保たれている	地域の行事に、展示や事業を提供している
	<p>&lt;評価&gt;</p> <p>令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、さまざまなイベントが中止となり、博物館が例年協力している団体等とのイベントに参加できなかった。また、地元店舗との共催で博物館キャラクターの塗り絵コンクールを開催した。</p>	

## 令和2年度 浜松市博物館事業評価

4	各分館が地域のあり方や課題解決の場となっている	展示や事業に対する感想や要望が寄せられている
<p>&lt;評価&gt;</p> <p>各分館では、博物館の企画展の巡回展示や、各地域に関する資料を活用した小展示を実施したほか、指定管理者が運営する分館が自主事業として地域の団体や市民と連携し、地域の歴史文化を紹介する展示や体験事業等を開催した。また、そうした展示・事業の中には、来館者や参加者から継続の要望や良好な感想が寄せられているものも存在する。</p>		

### 分析・課題

博物館は、展示解説や体験学習、資料調査など、市民が主体的にボランティア活動や事業に参画する場を設けている。若年層のボランティアや参加者も一定数存在するものの、その多くが学生または会社員であることから平日を中心に参画できないことが多く、主力層の高齢化が課題となっている。

地域のイベントは、新型コロナウイルス感染症予防のため積極的な活動が少なかったが、アフターコロナを見据えて引き続き良好な関係を維持していく必要がある。

各分館では、本館職員、区役所や協働センターの分館担当職員、指定管理者等と連携して、地域に根差した事業の展開を目指しているが、若干の格差は生じている。

### 今後の方策

市民が地域の歴史文化に関心をもち、主体的な活動に取り組む仕組みとして、ボランティアの活動内容や募集方法を再検討するとともに、令和4年度に新しく創設される予定の「(仮)文化財サポーター制度」との連携も視野に入れながら、市民の多くが博物館の事業に参画できる仕組みづくりを目指していく。また、市民協働事業については、参画する市民等の知的欲求に応えるために講座を開催するなど、引き続き市民の主体的な活動を積極的に支援することで、地域への愛着と誇りの醸成に寄与していく。

地域のイベントについては、継続性のあるものは引き続き関係性を築きながら、より市民が博物館施設を有効に活用できる仕組みづくりについて検討していく。

分館のあり方については、各地域の課題解決の場となっていくように、各地域の担当職員や指定管理者と連携を図りながら、地域の声を取り入れて積極的な事業展開を図っていく。

## 令和2年度 浜松市博物館事業評価

### 戦略指標5 情報の発信と公開

- ・SNSによる情報発信
- ・多言語対応ガイドシステム導入
- ・観光訪問者への情報提供

#### 定量的評価

No.	評価項目	実績値	目標値
1	HP、SNS更新回数	463回	30回
2	ミニコミ誌等定期投稿件数	87件	100件
3	ラジオ番組定期出演件数	4件	10件
4	報道取材件数	151件	200件
5	ポスター・チラシ発行回数	6回	7回

#### 定性的評価

No.	評価項目	判断基準
1	効果的な情報発信ができています	現状分析ができています。
	<p>&lt;評価&gt;</p> <p>利用者の情報源として最も多いチラシについては、特に効果が大きい学校を通じた配布を行った。効果的な発信のため、ミニコミ誌等の投稿やラジオ番組出演については見直しを行った。インターネット媒体の充実を図り、SNS（ツイッター、Instagram）によりタイムリーな情報発信を行った。SNSによる来館効果は、利用者アンケートには明確に表れていないため、来館に結びつくような内容にする必要がある。</p>	
2	観光訪問者など幅広い層に博物館に興味をもってもらおう	多言語によるガイドシステムを導入している。
	<p>&lt;評価&gt;</p> <p>新型コロナウイルス感染症予防のため、外国人の入国規制が継続されている。多言語によるガイドシステムがどの程度需要があり、どの言語が多いか、導入にあたっての手法や外国人目線の解説等の課題を検討している。さらに幅広い層に博物館に関心を持ってもらうため博物館グッズの開発を行った。</p>	
3	博物館に関する情報が公開されている。	博物館の館報が毎年発行されている
	<p>&lt;評価&gt;</p> <p>博物館情報、博物館だよりを定期的に発行しているほか、ホームページ及びSNSで博物館の情報を発信している。博物館収蔵品に関しては、収蔵品検索システム「ある蔵」で公開しているほか、博物館報を発行し研究成果を公表した。</p>	

## 令和2年度 浜松市博物館事業評価

### 分析・課題

紙媒体（チラシ、ポスター、博物館だよりなど）やネット媒体（ホームページ、SNS）など多様な手段で博物館の情報を発信しているほか、新聞・テレビなどの報道により情報が公開されている。アンケートから、情報源は紙媒体の方が依然として多いが市のデジタル化政策を踏まえると、ネット媒体による情報発信の強化は必要不可欠である。教育委員会からの通知により、学校を通じたチラシ配布は今後困難となるため、代替の方法が必要となる。

### 今後の方策

博物館への関心を高めるための多様な手法を導入する。

- ・企画展示の開催前に展示資料を段階的に公開・情報発信することで、展示に関する期待を高める。
- ・SNS等における外部との連携など、利用が少ない世代へ効果的なPRを行う。
- ・新たに文化財に指定された資料や、新たな収蔵品を速報的に展示公開・情報発信することで、市民の関心を高めていく。

## (2) 史跡 蜷塚遺跡保存活用計画について

### 1 計画の目的

東海地方有数の縄文時代の集落跡である史跡「蜷塚遺跡」は、昭和30年代に発掘調査や保存整備が行われ、保存整備は国内の先進事例として当時注目を集めた。しかしながら約60年が経過した今、保存・活用のあり方について再考する時期を迎えている。

そこで、国指定史跡である蜷塚遺跡が持つ価値と構成要素を明確化し、隣接する浜松市博物館を含め、今後、史跡を適切に保存・活用していくための基本方針及び整備の方向性等について保存活用計画に定める。

### 2 背景

文化財保護法の改正（平成31年）により、個別の文化財所有者又は管理者が保存活用計画を作成し、国へ認定申請ができるようになった。計画認定後は補助金の交付が円滑になるなど、優遇措置が受けられる。

### 3 経緯

令和2年度～ 計画策定に関する情報収集、基本方針の検討を開始（一部委託）  
史跡蜷塚遺跡保存活用検討会（以下、検討会）を設置し協議を開始  
文化庁・県と計画策定に関する協議を開始

令和3年度 蜷塚遺跡をめぐる現状と課題、目指す姿などを整理【別紙】  
地元自治会や小中学校教員等への聞き取り、公募型ワークショップの開催  
市議会・中区協議会への中間報告、庁内関係部署への説明・意見交換

### 4 保存活用の基本方針

- [調査研究] これまでに発掘調査された遺構や出土品等を再検証するとともに、最新の研究手法に基づく調査研究や発掘調査等を通じて、蜷塚遺跡の全体像を究明する。
- [保存] 周辺環境との調和を図りながら、遺跡の本質的な価値を将来にわたって確実に継承できるよう最大限留意し、適切な保存・管理を行う。
- [活用] 調査研究を通じて得られた遺跡の本質的な価値を分かりやすく伝えるとともに、縄文文化を学ぶ機会を広く提供する。
- [整備] 蜷塚遺跡の本質的な価値の保存に留意し、都市集客核として縄文時代の景観と暮らしが体感できる整備を進める。
- [運営体制] 史跡の目指すべき姿を実現するため、行政だけでなく市民・企業・大学・研究機関等と連携した運営体制を構築する。

### 5 今後の予定

令和3年度 年度末に保存活用計画を策定

令和4年度 保存活用計画の国認定申請、整備基本計画の策定

令和5年度以降 整備実施設計、整備工事（第1段階：令和4～8年度）



第1段階（令和4～8年度）における整備方針図（上）と目標図（下）

### (3) 浜松市博物館リニューアル事業について

#### 1 目的

- ・浜松市博物館は、築40年が経過し建物や建築設備の老朽化が進んでいる。
- ・隣接する史跡蛸塚遺跡について保存活用計画が策定中であり、博物館において遺跡のガイダンス機能の強化を検討している。運営方法の見直し、施設の大規模改修及び展示室について市民ニーズに沿った内容に更新するため博物館のリニューアル事業を行う。

#### 2 現状と課題

- ・蛸塚遺跡関連展示が少なく、ガイダンス施設の役割を十分果たしていない。
- ・所蔵資料のうち、伊場遺跡群弥生時代資料の重要文化財指定を目指している。
- ・最新の展示手法が取り入れられていない。
- ・施設の老朽化（空調・電気機械設備）が著しい。
- ・館内構造の不備（体験学習室の不足、一般エリアとバックヤードの区分等）

#### 3 本年度の取組み状況

##### (1) 民間専門人材を活用した運営改善・調査研究

プロジェクトマネージャーの富田和俊氏と、8月から来館及びWeb会議で博物館の管理運営について検討を行っている。

- ・分館を含めた現状の課題把握
- ・アンケートを施策に活用するため、利用者アンケートの改善
- ・エントランスの改善
- ・先進事例の情報収集及び分析

##### (2) 現状把握について

- ・8月に広報広聴課が広聴モニターアンケートを実施し、その中で博物館に関する項目を設定。
- ・今後、直近の利用者データの集計・分析を行う。

##### (3) 基本構想の策定について

現状の博物館の課題について検討・分析を行い、基本構想の策定工程を作成し、体制づくりを整備する。

#### 4 今後の予定

令和4年度	基本構想の策定
令和5年度	民間活力導入可能性調査・基本計画策定
令和6年度以降	基本計画策定、設計・改修工事、リニューアル

## (1) 令和2年度博物館事業報告

### ① 展示

会場	会期	展示会	担当
本館	～5月10日	テーマ展「めでたいかたち」 →4月22日以降中止	鈴木奈々
	5月23日～7月12日	テーマ展「まちの盛り場」	橋本
	7月25日～9月27日	テーマ展「あかりの道具」	鈴木奈々
	10月17日～11月29日	特別展 「浜松城～築城から現代へ～」	久野 橋本
	2月6日～	テーマ展 「これなんだ？～古代の木製品～」	佐野
	～5月6日	小展示（豊橋市自然史博物館共催） 「干支展 一子一」 →4月22日以降中止	橋本
	12月8日～3月7日	小展示 「道具たちの百年」（学校連携）	鈴木俊二 前田
	3月23日～	小展示 「干支展 ～丑（うし）～」（豊橋市自然史博物館共催）	鈴木奈々
通期	常設展示「目で見る浜松の歴史」	全学芸員	
市民ミュージアム浜北	～4月15日	三方原物語 木下恵介と映画（自主企画）	指定管理者
	6月17日～7月19日	浜北の社寺を訪ねて（自主企画 浜北文化協会連携）	指定管理者
	11月7日～1月17日	古代東海道（巡回展）	佐野
	1月23日～3月7日	干支展－丑（うし）－（巡回展）	鈴木奈々
姫街道と銅鐸の歴史民俗資料館	6月27日～9月6日	小さな野島青茲展	佐野
	9月12日～11月8日	めでたいかたち（巡回展）	鈴木奈々
	11月14日～1月24日	まちの盛り場（巡回展）	橋本
	1月27日～3月31日	パネル展 家康の名刹・旧跡・伝説の地	久野
春野歴史民俗資料館	6月13日～8月30日	めでたいかたち（巡回展）	鈴木奈々
水窪民俗資料館	6月6日～8月23日	昭和の暮らし1979	橋本
舞阪郷土資料館	4月5日～6月28日	全国うなぎ飯駅弁掛け紙展（自主企画）	指定管理者
	7月4日～8月30日	遠江の今川氏	佐野
	9月5日～10月25日	古代東海道（巡回展）	佐野

### ② おでかけミュージアム

項目	日程	概要
逸品まちかど陳列事業	申し込みに応じて随時	令和2年度は申込無

### ③ 体験・講座

項目	日程	概要
夏休み体験館	8月1日～8月23日	勾玉・火おこし・うちわづくり・提灯づくり →ガイドツアーは自由研究個別相談に変更
冬休み体験館	12月22日～1月5日	昔の遊び・絵付け体験・コマまわし大会
春休み体験館	3月23日～3月31日	昭和のおもちゃで遊ぶ (→中止)
桜まつり	3月27・28日	まが玉づくり・クイズラリー
各種体験イベント	季節ごと	年中行事やくらしの体験 →月見団子づくりは中止
博物館講座	展示会ごと	講演会・講座・ギャラリートーク
初歩の古文書講座	毎月第2日曜日	入門講座 →5月は中止
茅葺屋根で聞く昔話	毎月第2土曜日	市民団体により高山家住宅で開催 (→中止)
出前講座	申し込みに応じて随時	浜松の歴史・文化などについて

### ④ 市民学芸員・博物館ボランティア

項目	概要
博物館ボランティア	ボランティアの募集、説明会の実施、登録
ボランティア講座	ボランティア活動の充実を図るための講座開催と市民学芸員の認定
しじみの会	カラムシの糸づくり、体験学習活動
和綿の会	和綿の栽培と綿づくり
ガイドボランティア	常設展示の解説
古文書解説会	古文書解説 (本館で活動)
いぐさ会	展示解説、古文書解説 (姫街道と銅鐸の歴史民俗資料館で活動)
大橋ピアノ資料研究会	浜松のピアノ製造史の調査研究・資料整理
谷下ワニ研究会	化石展示計画、化石分類整理

### ⑤ 移動博物館・資料貸出 (学校対応)

項目	日程	概要
学校移動博物館A	各一週間程度 学校の休業時を除く	市内小学校へ出張し、展示と歴史体験を開催
学校移動博物館B	数日～一週間	展示用キットと体験用機材を貸出 ・大昔のくらしの道具 (小学6年生の授業用) ・むかしのくらしの道具 (小学3年生の授業用) ・太平洋戦争と浜松 (小学6年生の授業用) など
学校用資料貸出	数日～一週間	資料と体験用具を市内教員に貸出
教員向け講座	1日 (半日)	博物館利用や博物館資料の活用法についての講座の実施

## ⑥ 資料収集・保存・調査・活用

項目	概要
資料の受け入れ	寄贈資料、収集資料の受け入れ、保存、調査、活用
資料の整理	伊場遺跡出土品の重要文化財指定に向けての整理
図書を受け入れ	寄贈図書受け入れ・向坂鋼二氏寄贈図書の整理
文化財 I P M	害虫やカビによる資料劣化被害の防止を、化学薬剤による燻蒸だけに頼らない総合的有害生物管理ができる人材を養成（研修参加）、実践
資料の閲覧と利用	収蔵資料の特別閲覧（熟覧）、特別利用の受付、収蔵品・画像の貸出

## ⑦ 収蔵品台帳のデジタル化と画像公開事業（電子データ作成公開事業）

項目	概要
収蔵品台帳デジタル化 業務委託	分館の収蔵資料の台帳整備とデジタル化 分館資料等のデータ化、年 1,000 件・本館と分館所蔵資料、計 16 万点余の 統一的なデータベースを構築し、公開検索システムある蔵で公開を進める
収蔵品台帳データベー ス運用	収蔵品台帳データベースの管理、運用と公開

## ⑧ 調査・研究活動

項目	概要
蜷塚遺跡保存活用計画 策定	令和 2・3 年度に進める保存活用計画策定の 1 年目として、外部の有識者 による検討会の開催等を行った。
蜷塚遺跡出土品再検討	豊橋市自然史博物館の協力により、蜷塚遺跡第 1 貝塚出土の動物骨を整理 分類し、目録を館報に掲載した。
博物館報	館蔵資料の紹介・調査研究成果・事業活動報告を掲載、発刊
特別展図録	特別展「浜松城」の展示図録を発刊

## ⑨ 広報活動

項目	概要
博物館情報紙の発行	博物館情報（隔月・年 6 回）・博物館だより（年 3 回）の発行
広告媒体の発行	ポスター、チラシ、パンフレットの発行、掲出、配布
広告掲出	新聞、テレビ、ラジオ、情報誌
ホームページ	市ホームページの浜松市博物館サイトの運営
S N S	ツイッター、インスタグラムでの情報発信
情報メディア対応	新聞、情報誌、展覧会情報サイト等への情報提供
取材対応	新聞、雑誌、テレビ、ラジオ等の取材対応

## ⑩ 実習生等の受け入れ

項目	概要
博物館実習	地元出身学生及び地元大学学生の博物館実習を受け入れ
インターンシップ	浜松市役所のインターンシップの受け入れ →中止
教員研修	教員研修の受け入れ
職場体験	中学生、高校生の職場体験の受け入れ

## ⑪ 外部団体等との連携

項目	概要
日本博物館協会	研修等への参加 →中止
静岡県博物館協会	事業への参加、事業推進グループへの職員派遣
キッズアートプロジェクト静岡	県内加盟館と連携したキッズアートパスポート事業への参加
静岡文化芸術大学	浜松の型染め共同研究
静岡大学	資料提供・博物館実習（情報学部） 滝沢鍾乳洞遺跡の共同調査（人文社会科学部）
豊橋市自然史博物館	千支展の共催、蜷塚遺跡の獣骨等の整理
根堅遺跡調査団	浜北人や根堅遺跡、堀谷洞窟遺跡の共同調査 →令和2年度は現地調査なし
中日新聞東海本社	浜松の歴史のとびらの連載（毎週金曜日） 新聞記事協力
中日新聞社 INE 事務局	新聞作品コンクール受賞作品展の共催

# 令和3年度 第2回 浜松市広聴モニターアンケート調査結果の概要

## 1 調査目的

市政の課題等について、迅速に市民ニーズを把握し、市政へ反映するため

## 2 調査事項

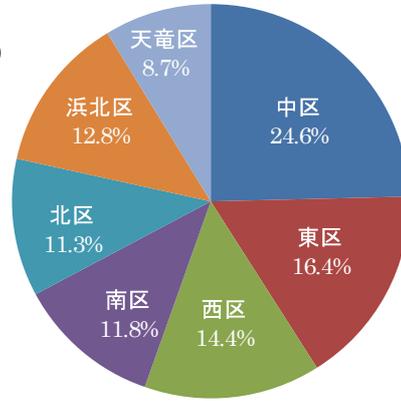
- (1) 浜松市フルーツパークについて (産業部 農業水産課)
- (2) 博物館について (市民部 文化財課)
- (3) DVについて (市民部 UD・男女共同参画課)
- (4) 食の健康づくりについて (健康福祉部 健康増進課)

## 3 調査実施概要

- (1) 調査地域 浜松市内
- (2) 調査対象 広聴モニター222人
- (3) 調査方法 質問紙郵送法及びインターネット回答
- (4) 調査期間 令和3年8月10日～8月24日

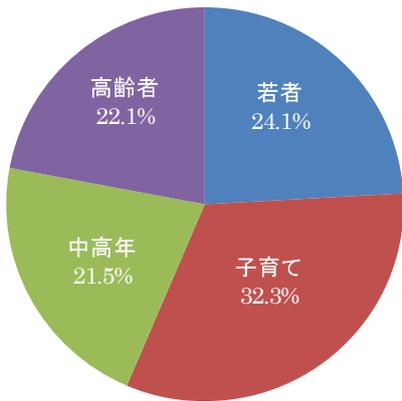
## 4 回収状況、有効回収率 195人(87.8%)

■ 回答者の居住区 (N=195)



居住区	人数	割合
中区	48人	24.6%
東区	32人	16.4%
西区	28人	14.4%
南区	23人	11.8%
北区	22人	11.3%
浜北区	25人	12.8%
天竜区	17人	8.7%

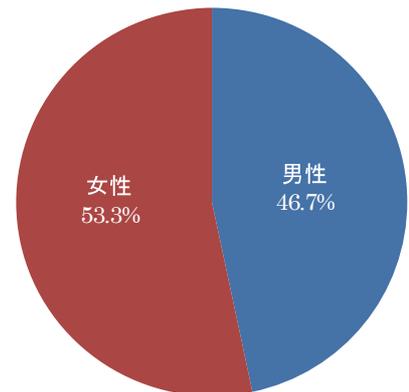
■ 回答者の世代 (N=195)



世代	年齢	人数	割合
若者	18歳～34歳	47人	24.1%
子育て	35歳～49歳	63人	32.3%
中高年	50歳～64歳	42人	21.5%
高齢者	65歳～79歳	43人	22.1%

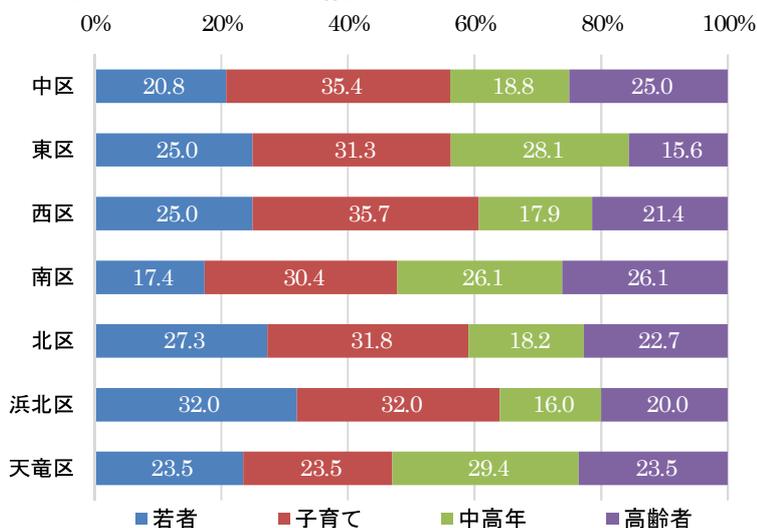


■ 回答者の性別 (N=195)



性別	人数	割合
男性	91人	46.7%
女性	104人	53.3%

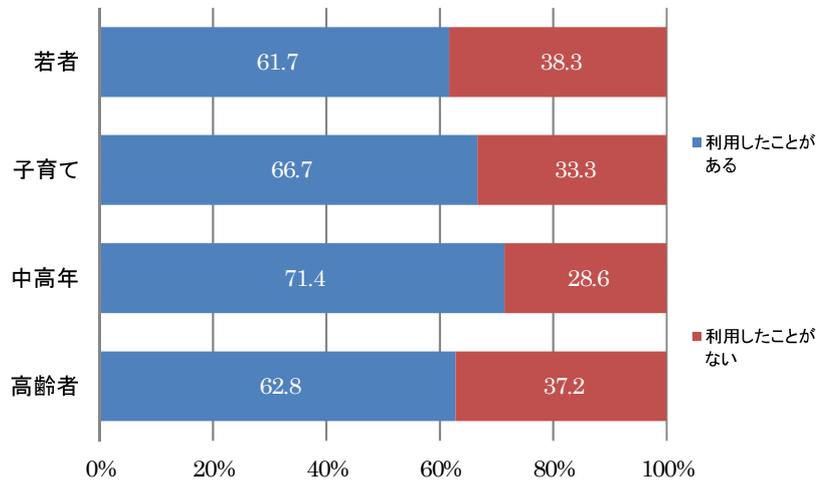
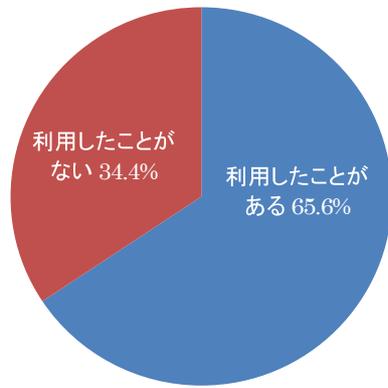
■ 行政区別の世代構成比 (N=195)



※比率はすべて百分率(パーセント)で表し、少数点以下第2位を四捨五入しています。このため、比率の合計が100%にならない場合があります。

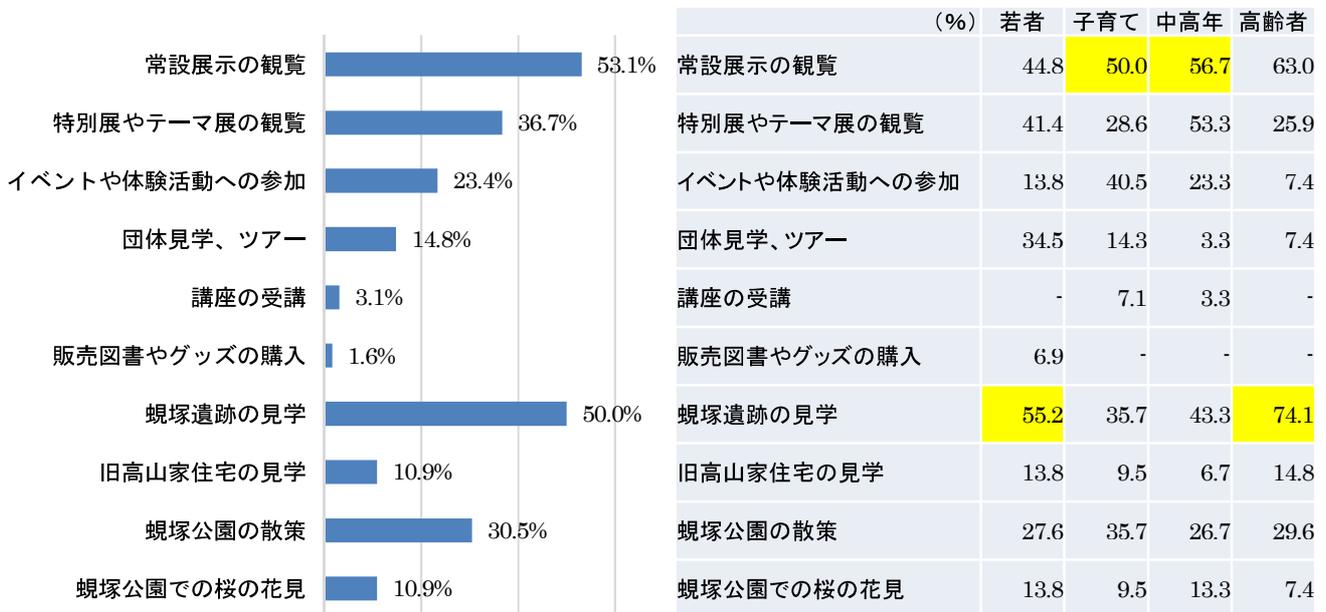
## <浜松市博物館について>

### ■問1 浜松市博物館(蜷塚遺跡を含む)の利用経験 (N=195)



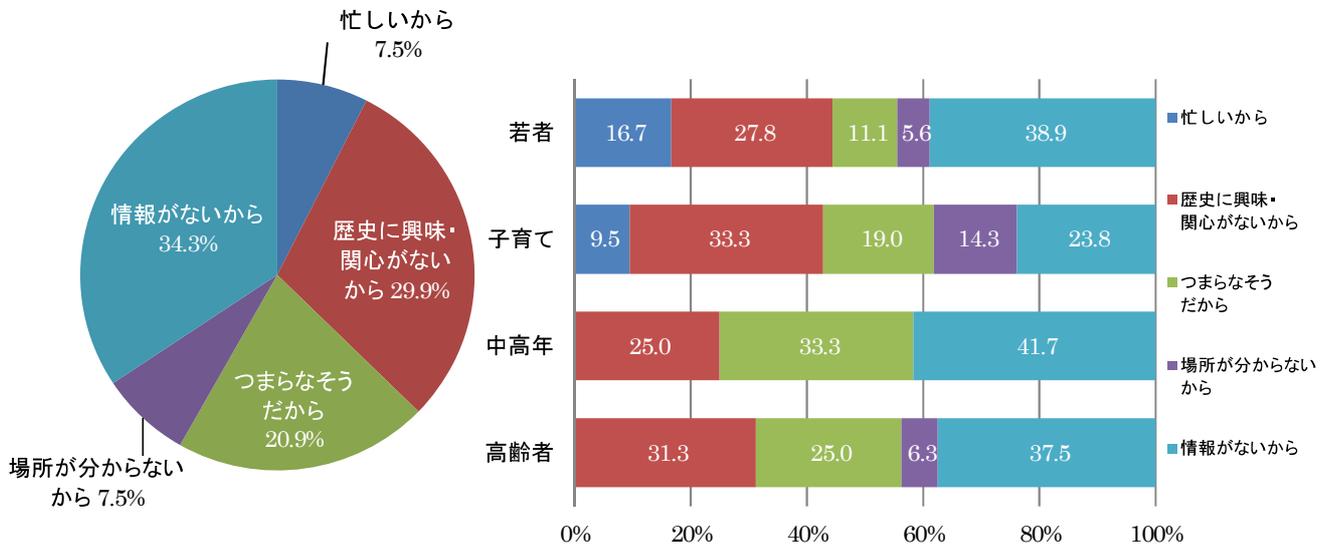
- 浜松市博物館(蜷塚遺跡を含む)の利用経験については、「利用したことがある」が約7割となっています。
- 世代別にみると、若者・高齢者の約6割、子育て・中高年の約7割が「利用したことがある」と回答しています。

### ■問2 浜松市博物館の利用目的 (N=128 複数回答) (問1で「1 利用したことがある」と回答した方)



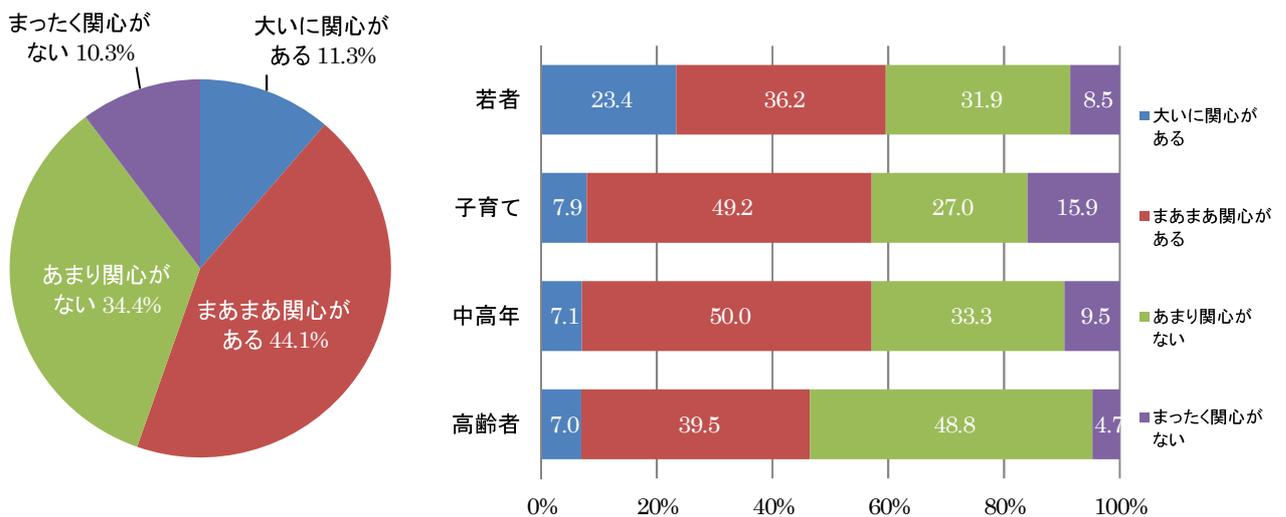
- 浜松市博物館の利用目的については、「常設展示の観覧」が最も多く、次いで「蜷塚遺跡の見学」も5割となっています。
- 世代別にみると、若者・高齢者では「蜷塚遺跡の見学」が、子育て・中高年では「常設展示の観覧」が最も多い回答となっています。

■ 問3 浜松市博物館を利用したことがない理由 (N=67)  
 (問1で「2 利用したことがない」と回答した方)



- 浜松市博物館を利用したことがない理由については、「情報がないから」が約3割と最も多い回答となっています。
- 世代別にみると、若者・中高年・高齢者では「情報がないから」が、子育てでは「歴史に興味・関心がないから」が最も多い回答となっています。

■ 問4 蜷塚遺跡と博物館のリニューアルへの関心 (N=195)



- 蜷塚遺跡と博物館のリニューアルへの関心については、『関心がある』(「大いに興味がある」と「まあまあ興味がある」の合計)が約6割となっています。
- 世代別にみると、世代が若くなるにつれて『関心がある』の回答割合が高くなっています。

## 問5 博物館のリニューアルで、あれば魅力的だと思う機能

(N=195 複数回答)

		若者	子育て	中高年	高齢者
市内の貴重な資料を集めた常設展示	40.0%	36.2	28.6	45.2	55.8
さまざまなテーマを取り上げる企画展示	15.9%	12.8	9.5	26.2	18.6
デジタル技術を活用した体感的な展示	55.9%	61.7	57.1	61.9	41.9
博物館学芸員や専門家による講座などの開催	11.8%	8.5	9.5	19.0	11.6
体験学習やワークショップの開催	47.7%	53.2	52.4	40.5	41.9
ライブなど異ジャンルと連携したイベントの開催	23.6%	25.5	38.1	11.9	11.6
地域の歴史文化を訪ねる、現地見学会の開催	13.3%	10.6	7.9	14.3	23.3
資料や図書の閲覧などによる市民の学習支援	7.7%	12.8	1.6	9.5	9.3
博物館学芸員と協働して行う調査研究	7.2%	6.4	9.5	7.1	4.7
ユニバーサルデザイン対応の設備やおもてなし	14.4%	12.8	19.0	11.9	11.6
外国人などに対応した多言語案内	12.3%	6.4	14.3	23.8	4.7
ホームページやSNSなどを活用した情報発信	22.6%	29.8	19.0	23.8	18.6
飲食や休憩ができるミュージアムカフェ	48.2%	55.3	47.6	42.9	46.5
グッズなどを販売するミュージアムショップ	17.4%	14.9	22.2	23.8	7.0
博物館ボランティアの育成・支援	17.4%	14.9	23.8	16.7	11.6
子どもが楽しんで理解できるキッズコーナー	49.2%	51.1	55.6	31.0	55.8
分からない	2.6%	2.1	-	7.1	2.3
無回答	1.0%	-	-	-	4.7

- 博物館のリニューアルで、あれば魅力的だと思う機能については、「デジタル技術を活用した体感的な展示」が約6割と最も多い回答となっています。
- 世代別にみると、若者・子育て・中高年では「デジタル技術を活用した体感的な展示」が、高齢者では「市内の貴重な資料を集めた常設展示」と「子どもが楽しんで理解できるキッズコーナー」が最も多い回答となっています。